



2026 年 9 月 29 日

各 位

会 社 名 クラサスケミカル株式会社
代表者名 代表取締役 福田 浩嗣
(コード番号: 646A 東証スタンダード市場)
問 合 せ 先 財務・経理部長 中村 慎一
(TEL 03-6263-8083 (代表))

東京証券取引所スタンダード市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2026 年 9 月 29 日に東京証券取引所スタンダード市場に上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

2026 年 12 月期（2026 年 1 月 1 日から 12 月 31 日）における当社グループの業績予想は、以下のとおりであり、また最近の決算情報等は別添のとおりであります。

【連結】

(単位：百万円、%)

項目	決算期	2026 年 12 月期 (予想)			2026 年 12 月期 中間会計期間 (実績)		2025 年 12 月期 (実績)	
			対売上 高比率	対前期 増減率		対売上 高比率		対売上 高比率
売 上 高		323,400	100.0	6.4	132,009	100.0	303,926	100.0
営 業 利 益		3,000	0.9	△28.8	3,564	2.7	4,211	1.4
経 常 利 益		4,200	1.3	△24.9	4,134	3.1	5,589	1.8
親会社株主に帰属する 当期（中間）純利益		1,700	0.5	△45.1	2,621	2.0	3,096	1.0
1 株 当 たり 当 期 (中 間) 純 利 益		7 円 25 銭			11 円 18 銭		13 円 21 銭	
1 株 当 たり 配 当 金		12 円 00 銭			—		0 円 00 銭	

(注) 1. 当社は、2026 年 8 月 10 日付で、普通株式 200,100 株につき 234,415,443 株の割合で株式分割を行っております。2025 年 12 月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して 1 株当たり当期（中間）純利益を算定しております。

2. 当社の上場後の株主還元に関する方針について、当社グループが営む石油化学事業では、原料価格や製品市況の変動により、短期的には経営成績の大幅な変動が生じる可能性があります。原材料価格の変動に連動する販売価格の設定や、これまでに実施済の生産設備のスクラップ&ビルド、事業の選択と集中などの事業構造改革により、中長期的には安定したキャッシュ・フローを創出してきた実績を踏まえて、以下のとおりとしております。

- ① 株主還元は DOE（配当金総額／期首期末平均株主資本）5%を目標とし、安定的な配当を実施
- ② 安定的なキャッシュ・フローの創出と利益成長を実現し、業績やキャッシュ・フロー、財務状況等に応じて還元水準の継続的向上を図る

3. 本資料に記載の 2026 年 12 月期の連結業績予想については、2026 年 12 月期第 2 四半期までの実績に 2026 年 12 月期第 3 四半期以降の見込みを勘案して作成しております。

4. 当中間連結会計期間における平均為替レートは 158 円/米ドル、平均国産ナフサ価格は 92,300 円/KL

でした。

5. 2026 年 12 月期の通期業績見通しについて、想定為替レートを 156.5 円/米ドル、想定国産ナフサ価格を 89,150 円/KL として算出しております。この想定為替レート及び想定国産ナフサ価格は、2026 年 6 月までの実績値と 2026 年 7 月以降の想定値から算出したものです。2026 年 7 月以降の想定為替レートは 155 円/米ドル、想定国産ナフサ価格は 86,000 円/KL としております。

【2026 年 12 月期業績予想の前提条件】

当社グループは、連結子会社 3 社、関連会社 5 社で構成されており、人々の暮らしに欠かすことができない石油化学製品の製造販売を事業内容とし、環境と産業の調和を保ちながら社会の持続的な発展に貢献することを目的に、「明日の暮らしを化学で支える」をパーパス（存在意義）としています。パーパス実現に向けて、従来の石油化学メーカーから、持続可能な社会への道をひらく次世代石油化学カンパニーへの進化を目指してまいります。安全安定操業をベースにお客様への安定供給を追求し、基盤産業としての信頼を確固たるものにし、炭素循環型グリーンケミカル産業への変革へ向け、技術革新とステークホルダーとの共創を進め、安心な暮らしを支える価値を創造してまいります。

1. 当社グループの見通し

当中間連結会計期間の世界経済は、中東情勢を巡る軍事的緊張やホルムズ海峡を巡る物流停滞懸念が継続しており、不安定な状況が続いております。日本経済は、雇用者所得の増加や企業の設備投資増加の動きが見られる一方、原油高・物価高の影響が懸念されています。

石油化学産業においては、国内における石油化学製品需要の低迷や中国を中心とした海外での石油化学プラントの新設・増設による供給過剰を背景として、国内エチレンプラントの稼働は低調に推移しています。また、中東情勢の緊迫化に伴い、原油・ナフサ等の調達懸念や価格上昇による製造コストの増加が生じており、先行き不透明な状況が続いております。

そのような中、当社グループは主要原料であるナフサについて、ホルムズ海峡域外からを含む調達先の多様化を進めることで、稼働に必要な原料を確保しております。また、原料価格の高騰に伴う製造コストの上昇について、当社の多くの製品は、原材料の価格に連動する計算式に基づき決定されており、適切に販売価格への転嫁を進めております。

このような状況のもと、2026 年 12 月期における当社グループの連結業績は売上高 3,234 億円（前期比 6.4%増）、営業利益 30 億円（前期比 28.8%減）、経常利益 42 億円（前期比 24.9%減）、親会社株主に帰属する当期純利益 17 億円（前期比 45.1%減）を見込んでおります。

2. 業績予想の前提条件

（売上高）

当社グループは石油化学事業の単一セグメントであります。売上高はオレフィン事業、有機化学品事業、合成樹脂事業、その他事業の 4 事業ごとに、販売数量については過去からの傾向及び販売先への需要動向ヒアリングや当社の販売戦略を考慮のうえ、また、販売価格については業界環境やナフサ等の原材料の仕入価格等を考慮のうえ作成し、業績予想としております。

当中間連結会計期間における当社グループの売上高は 1,320 億 9 百万円となりました。オレフィン事業については、ナフサ等の原料価格の上昇に伴い販売単価は上昇したものの、エチレンプラントの大型定期修理（※）の影響により販売数量が減少したことや、中東情勢の影響によりナフサ仕入が一時的に減少したことから、大型定期修理終了後のエチレンプラントの稼働率を下げたため、売上高 620 億 51 百万円となりました。有機化学品事業については、大型定期修理の影響で販売数量は減少したものの、原料価格の上昇に伴い販売単価が上昇し、売上高 241 億 54 百万円となりました。合成樹脂事業については、国産ナフサ価格の上昇に伴い販売価格が上昇し、売上高 380 億 20 百万円となりました。その他事業の売上高は 77 億 84 百万円となりました。

2026 年 12 月期の売上高については、3,234 億円（前期比 6.4%増）を見込んでおります。オレフィン事業については、当中間連結会計期間までの実績に加え、販売数量は顧客への需要量のヒアリングや当社販売戦略を織り込み、販売単価についてはナフサ価格の上昇の価格転嫁や海外市況の低迷に伴う輸出品の採算悪化を織り込み、売上高 1,670 億円（前期比 0.5%減）を見込んでおります。有機化学品事業については、当中間連結会計期間までの実績に加え、中国を中心とした石油化学プラントの新設・増設に伴う供給過剰により販売数量は減少するものの、販売単価についてはナフサや原料価格の上昇の価格転嫁を織り込み、売上高 520 億円（前期比 8.8%増）を見込んでおります。合成樹脂事業については、当中間連結会計期間までの実績に加え、中東情勢の影響による顧客の在庫確保の動きや、同業他社における定期修理の影響による販売数量の増加を織り込み、

売上高は 870 億円（前期比 22.5%増）を見込んでおります。その他事業については、当中間連結会計期間までの実績に加え、大分石油化学コンビナート構成企業の稼働計画をもとにユーティリティー（電力、蒸気、用水等）の販売計画を策定し、売上高は 174 億円（前期比 1.2%増）を見込んでおります。

（※）大型定期修理について

2026 年 12 月期はエチレンプラントの大型定期修理（2026 年 2 月～4 月）を実施しております。これは設備の法定点検のため 4 年に 1 度実施しているもので、修理期間中の生産を停止し在庫販売が中心となっております。そのため 2026 年 12 月期の販売数量はオレフィン事業を中心に例年に比べて減少する見込みです。

（売上原価、売上総利益）

当中間連結会計期間においては、売上原価は 1,198 億 5 百万円、売上総利益は 122 億 4 百万円となりました。これは、大型定期修理に伴う販売数量の減少に伴いナフサの仕入が減少したことや、中東情勢の影響によりナフサ価格が短期間で高騰したことに伴い、プラスの在庫評価影響（※）が 72 億円発生し売上総利益が押し上げられたことによるものです。

2026 年 12 月期の売上原価については、当中間連結会計期間までの実績に加え、7 月以降は主要原料であるナフサ価格や為替の想定を前提として、その他原燃料費や人件費、減価償却費といった費目ごとの積上げで算出し、加えて、生産合理化等による原価低減効果を考慮し策定しております。また、当中間連結会計期間においてはプラスの在庫評価影響により利益が押し上げられましたが、2026 年 7 月以降はナフサ価格の下落によりマイナスの在庫評価影響が 82 億円発生することを織り込んでおります。その結果、売上原価は 3,021 億円（前期比 6.8%増）、売上総利益は 213 億円（前期比 0.9%増）となる見込みです。

（※）在庫評価影響について

当社は、総平均法と低価法による影響を在庫評価影響として説明しております。これらの影響は、原料価格変動のタイミングと在庫保有量に起因するものであり、ある特定の会計期間においては利益を大きく増減させる場合がありますが、価格上昇局面で生じた利益押し上げ効果は、その後の価格下落局面では利益押し下げ要因として作用するなど、中長期的な価格変動サイクルを通じて相殺される傾向があります。

＜総平均法による影響＞

当社は棚卸資産の評価方法として総平均法を採用しております。総平均法では、過去に購入したナフサ等の原料と当期に購入した原料の取得原価を平均して製造原価を算定するため、原料価格が大きく変動した場合には、実際の市場価格と会計上の原価との間に差が生じます。

具体的には、原料価格が上昇局面にある場合は、比較的安価な在庫が製品原価に反映されることから、一時的に利益が押し上げられます（プラスの在庫評価影響）。逆に、原料価格が下落局面にある場合には、比較的高価な在庫が製品原価に反映されることから、一時的に利益が押し下げられる傾向があります（マイナスの在庫評価影響）。

＜低価法による影響＞

期末在庫について、期末在庫価格と正味売却価格を比較し、期末在庫価格が高い場合は、低価法に基づく処理として正味売却価格まで簿価を切り下げる処理を実施します。四半期毎に洗い替えの処理を実施しますが、通期損益に影響を与える場合があります。

（販売費及び一般管理費、営業利益）

販売費及び一般管理費は、主に物流費、人件費、業務委託費、研究開発費、その他経費で構成されています。

当中間連結会計期間における販売費及び一般管理費は、物流費や人件費の増加に伴い 86 億 40 百万円となりました。その結果、営業利益は 35 億 64 百万円となりました。

2026 年 12 月期の販売費及び一般管理費については、当中間連結会計期間までの実績に加え、7 月以降は物流費や人件費等の増加の影響を踏まえて算定しており 183 億円（前期比 8.3%増）と見込んでおります。その

結果、営業利益は 30 億円（前期比 28.8%減）と見込んでおります。

（営業外損益、経常利益）

営業外損益は、主に持分法投資損益、金融収支、固定資産賃貸料及び賃貸費用、その他の営業外損益で構成されています。2026 年 6 月までの実績に加え、7 月以降は費目ごとに見込み時点の動向を踏まえ積上げで算定しております。2026 年 12 月期の営業外損益は 12 億円（前期比 12.9%減）と見込んでおります。その結果、経常利益は 42 億円（前期比 24.9%減）と見込んでおります。

（特別損益、親会社株主に帰属する当期純利益）

当中間連結会計期間における特別損益は、大型定期修理の実施に伴う固定資産除却損 9 億 44 百万円を計上しております。2026 年 12 月期における特別損益は固定資産除却損 13 億円を見込んでおります。法人税等については利益計画に基づき算定しております。その結果、親会社株主に帰属する当期純利益は 17 億円（前期比 45.1%減）と見込んでおります。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合がございます。

以 上



2026年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年9月29日

上場会社名 クラサスケミカル株式会社 上場取引所 東
コード番号 646A URL <https://www.crasus.co.jp>
代表者 （役職名）代表取締役 （氏名）福田 浩嗣
問合せ先責任者 （役職名）財務・経理部長 （氏名）中村 慎一 TEL 03 (6263) 8083
半期報告書提出予定日 — 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満四捨五入）

1. 2026年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2026年1月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期中間期	132,009	—	3,564	—	4,134	—	2,621	—
2025年12月期中間期	—	—	—	—	—	—	—	—

（注）包括利益 2026年12月期中間期 2,534百万円（－％） 2025年12月期中間期 ー百万円（－％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期中間期	11.18	—
2025年12月期中間期	—	—

（注）1. 2025年12月期中間期については中間連結財務諸表を作成していないため、2025年12月期中間期の数値及び対前年中間期増減率、並びに2026年12月期中間期の対前年中間期増減率について記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。
3. 当社は、2026年8月10日付で普通株式200,100株につき234,415,443株の割合で株式分割を行っております。当中間連結会計期間の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり中間純利益を算定しております。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期中間期	217,123	76,707	31.9
2025年12月期	191,166	74,649	34.8

（参考）自己資本 2026年12月期中間期 69,225百万円 2025年12月期 66,602百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	—	—	0.00	0.00
2026年12月期	—	—	—	—	—
2026年12月期（予想）	—	—	—	12.00	12.00

（注）1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
2. 当社は、2026年8月10日付で普通株式200,100株につき234,415,443株の割合で株式分割を行っております。
2026年12月期（予想）については当該株式分割を考慮した額を記載しております。

3. 2026年12月期の連結業績予想（2026年1月1日～2026年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
通期	百万円 323,400	% 6.4	百万円 3,000	% △28.8	百万円 4,200	% △24.9	百万円 1,700	% △45.1	円 銭 7.25

（注） 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 当社は、2026年8月10日付けで普通株式200,100株につき234,415,443株の割合で株式分割を行っております。

1株当たり当期純利益については、当該株式分割後の数値を記載しております。

※ 注記事項

（1）当中間期における連結範囲の重要な変更：無

（2）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

詳細は【添付資料】8ページ「2. 中間連結財務諸表及び主な注記（4）中間連結財務諸表に関する注記事項（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご覧ください。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期中間期	234,415,443株	2025年12月期	234,415,443株
② 期末自己株式数	2026年12月期中間期	－株	2025年12月期	－株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年12月期中間期	234,415,443株	2025年12月期中間期	－株

（注） 1. 2025年12月期中間期については中間連結財務諸表を作成していないため、2025年12月期中間期の期中平均株式数は記載しておりません。

2. 当社は、2026年8月10日付で普通株式200,100株につき234,415,443株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われていると仮定して「期末発行済株式数（自己株式を含む）」「期末自己株式数」及び「期中平均株式数（中間期）」を算定しております。

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、【添付資料】2ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 中間連結貸借対照表	3
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	5
中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(重要な後発事象の注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間の世界経済は、米国・イランの軍事衝突に端を発した中東情勢の緊迫化により不安定な局面となりました。日本経済は、雇用者所得の増加や企業の設備投資増加の動きが見られる一方、原油高・物価高の影響が懸念されています。わが国の石油化学産業は、中国を中心とした石油化学プラントの新設・増設による供給過多に加え、川下製品の需要減少の影響を受け、エチレンプラント稼働率は低調に推移しました。また、中東情勢の不安定化により、ホルムズ海峡の事実上封鎖の影響を受けた原油やナフサ等の調達懸念や価格高騰による製造コスト上昇に対する先行きの不透明感が引き続き存在しています。

このような状況の下、当社グループの連結業績につきましては、売上高は1,320億9百万円、営業利益は35億64百万円、経常利益は41億34百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は26億21百万円となりました。

事業分野別の売上高は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

事業分野の名称	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
オレフィン事業	62,051
有機化学品事業	24,154
合成樹脂事業	38,020
その他事業	7,784

オレフィン事業は、国産ナフサ価格の上昇に伴い販売価格は上昇したものの、設備の定期修理の影響で販売数量が減少し、売上高620億51百万円となりました。

有機化学品事業は、設備の定期修理の影響で販売数量が減少したものの、原料価格の上昇に伴い販売単価が上昇し、売上高241億54百万円となりました。

合成樹脂事業は国産ナフサ価格の上昇に伴い販売価格が上昇し売上高380億20百万円となりました。

その他の売上高は77億84百万円となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末の資産合計は、主に原材料価格の上昇に伴い棚卸資産が増加したため前連結会計年度末比259億58百万円増加の2,171億23百万円となりました。負債合計は、主に原材料価格の上昇に伴い仕入債務や有利子負債が増加したため前連結会計年度末比239億0百万円増加の1,404億16百万円となりました。純資産合計は親会社株主に帰属する中間純利益の計上等により、前連結会計年度末比20億58百万円増加の767億7百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年12月期の業績予想につきましては、本日公表いたしました「東京証券取引所スタンダード市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

なお、当該業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,336	9,459
売掛金	57,587	63,745
電子記録債権	3,510	3,342
商品及び製品	19,041	25,207
仕掛品	123	284
原材料及び貯蔵品	17,130	27,722
その他	4,223	9,620
流動資産合計	118,950	139,379
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,904	7,370
機械装置及び運搬具(純額)	14,760	16,982
土地	31,757	31,756
その他(純額)	2,468	3,368
有形固定資産合計	55,888	59,476
無形固定資産	1,539	1,473
投資その他の資産		
投資有価証券	11,265	11,441
その他	3,531	5,363
貸倒引当金	△8	△8
投資その他の資産合計	14,788	16,796
固定資産合計	72,215	77,744
資産合計	191,166	217,123
負債の部		
流動負債		
買掛金	36,830	43,740
電子記録債務	1,193	3,984
短期借入金	52,060	67,320
1年内返済予定の長期借入金	200	200
未払法人税等	1,411	1,593
修繕引当金	5,998	538
賞与引当金	617	359
その他	11,140	15,473
流動負債合計	109,450	133,208
固定負債		
長期借入金	200	100
修繕引当金	76	428
その他	6,791	6,681
固定負債合計	7,067	7,208
負債合計	116,516	140,416

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	110	110
資本剰余金	49,616	49,616
利益剰余金	6,119	8,740
株主資本合計	55,844	58,465
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20	22
土地再評価差額金	10,738	10,738
その他の包括利益累計額合計	10,758	10,760
非支配株主持分	8,047	7,482
純資産合計	74,649	76,707
負債純資産合計	191,166	217,123

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

(中間連結損益計算書)

(中間連結会計期間)

(単位：百万円)

	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
売上高	132,009
売上原価	119,805
売上総利益	12,204
販売費及び一般管理費	8,640
営業利益	3,564
営業外収益	
受取利息	24
受取配当金	21
持分法による投資利益	682
その他	322
営業外収益合計	1,049
営業外費用	
支払利息	325
その他	153
営業外費用合計	479
経常利益	4,134
特別利益	
固定資産売却益	1
特別利益合計	1
特別損失	
固定資産除却損	944
特別損失合計	944
税金等調整前中間純利益	3,192
法人税等合計	661
中間純利益	2,531
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△90
親会社株主に帰属する中間純利益	2,621

(中間連結包括利益計算書)

(中間連結会計期間)

(単位：百万円)

	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
中間純利益	2,531
その他の包括利益	
持分法適用会社に対する持分相当額	3
その他の包括利益合計	3
中間包括利益	2,534
(内訳)	
親会社株主に係る中間包括利益	2,623
非支配株主に係る中間包括利益	△89

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純利益	3,192
減価償却費	2,161
修繕引当金の増減額 (△は減少)	△5,109
受取利息及び受取配当金	△44
支払利息	325
持分法による投資損益 (△は益)	△682
固定資産除却損	944
固定資産売却損益 (△は益)	△1
売上債権の増減額 (△は増加)	△5,989
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△16,919
仕入債務の増減額 (△は減少)	9,340
その他	△3,804
小計	△16,587
利息及び配当金の受取額	555
利息の支払額	△282
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△1,624
営業活動によるキャッシュ・フロー	△17,938
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形及び無形固定資産の取得による支出	△3,731
有形固定資産の売却による収入	5
その他	△896
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,622
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	15,260
長期借入金の返済による支出	△100
非支配株主への配当金の支払額	△476
その他	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,683
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△7,877
現金及び現金同等物の期首残高	17,336
現金及び現金同等物の中間期末残高	9,459

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等の注記)

当社グループは、石油化学事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象の注記)

(親会社の異動)

当社の親会社である株式会社レゾナック・ホールディングス(以下「レゾナックHD」)は、2026年8月25日開催の取締役会において、当社のパーシャル・スピノフ(以下「本スピノフ」)の実行を決議いたしました。本スピノフは、レゾナックHDが保有する当社の普通株式(以下「当社株式」)の80%超をレゾナックHD株主に現物配当により分配するものであり、本スピノフの実行により、レゾナックHDは当社の親会社に該当しないこととなります。

なお、本スピノフの実行は、株式会社東京証券取引所からの当社株式の上場承認の取得等を条件としております。

1. 当該異動に係る親会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金の額及び事業の内容

(親会社でなくなるもの)

- | | |
|------------|--------------------|
| (1) 名称 | 株式会社レゾナック・ホールディングス |
| (2) 住所 | 東京都港区東新橋一丁目9番1号 |
| (3) 代表者の氏名 | 高橋 秀仁 |
| (4) 資本金の額 | 195,946百万円 |
| (5) 事業の内容 | 子会社の経営管理 |

2. 当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当社の議決権の数および当社の総株主等の議決権に対する割合

(1) 所有議決権の数

異動前: 200,100個

異動後: 未定

(2) 総株主等の議決権に対する割合

異動前: 100.00%

異動後: 未定※

※異動後の当該親会社の所有に係る当社の議決権の当社の総株主等の議決権に対する割合は20%未満となる予定です。

3. 当該異動の年月日

2026年10月1日(予定)

(株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更並びに単元株制度の採用)

当社は、2026年8月10日開催の取締役会及び臨時株主総会において、株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更を行うことを決議いたしました。また、2026年8月10日開催の臨時株主総会決議において、単元株制度の採用及び単元株制度採用に伴う定款の一部変更を行うことを決議いたしました。

1. 株式分割、単元株制度の採用の目的

本スピンオフの実行により、レゾナックHDが2026年9月30日を基準日として、同日のレゾナックHD株主名簿に記録された株主の保有するレゾナックHD株式1株につき、当社株式1株の割合で現物配当を行うことを目的として、当社は、株式分割を実施するとともに、1単元を100株とする単元株制度を採用いたしました。

2. 株式分割の概要

(1) 分割の方法

2026年8月10日を基準日として、同日最終の当社の株主名簿に記載又は記録されている株主の有する普通株式を、200,100株につき234,415,443株の割合をもって分割しております。

(2) 分割により増加する株式数

株式分割前の発行済株式総数	200,100株
今回の分割により増加する株式数	234,215,343株
株式分割後の発行済株式総数	234,415,443株
株式分割後の発行可能株式総数	800,000,000株

なお、当社は、発行可能株式総数に係る定款変更を行い、2026年8月10日付で発行可能株式総数は、799,000,000株増加し、800,000,000株といたしました。

(3) 株式分割の効力発生日

基準日	: 2026年8月10日
効力発生日	: 2026年8月10日

(4) 1株当たり情報に及ぼす影響

1株当たり情報に及ぼす影響については、当該箇所に記載しております。

3. 単元株制度の採用

当社は、単元株制度を採用し、普通株式の単元株式数は100株といたしました。

4. その他

今回の株式分割に際して、資本金の額の変更はありません。